

## 学問論

### 0. 本勉強会について

「こういうことを勉強しようというはっきりとした目標があったわけではない。ただ自分の中に不安な穴があって、なにかでそれを埋めようとしてやみくもに本を読んでいたような気がする」 竹田青嗣 『自分を知るための哲学入門』 あとがき

### 1. はじめに

- ・ 何のためにあるのか、何を意図して発信されているのか分からない「空虚な学問」
- ・ 本勉強会の内容 = 空虚な学問が現れる原因についての考察

## 第一章 : なぜ空虚な学問が現れるのか

### 0. 知識人たちの考えを参考に

- (i) 大きな物語の凋落 : 東浩紀
- ・ 「真の神への道」「真の幸福への道」などの物語が説得力を失う
  - ・ 学問への意味や意義は自分で解釈(設定)しなければならなくなってしまう
- (ii) 「世間」という存在 : 阿部勤也
- ・ 研究者や学者が扱う内容は学会という「世間」に対してなされる
  - ・ ある「世間」とそれ以外との認識のズレ
- (iii) 「退屈な学問」 : 村上陽一郎
- ・ すでに知っていることを確認するための学問

## 第二章 : なぜ空虚な学問が現れるのか(私見)

### 0. 楽しさから始まる学問

- (a) 学問の「楽しさ」とは
- ・ 退屈な学問から喜ばしき学問へ(自己解体)
  - ・ 世界を知ることそのものの楽しさ
- (b) 楽しさが生み出す空虚さ
- ・ 個人的な楽しさが共有できない場合

## 1. 生きにくさから始まる学問

(a) 「生きにくさ」とは

- ・ 何か（明確 / 不明確）に対する不安、嫌悪、苦痛、苛立ち、違和感
- ・ 生きにくさを知るため（了解）、解決するための学問

(b) 生きにくさが生み出す空虚さ

- ・ 個人的な生きにくさが共有できない場合

## 第三章 : なぜ空虚な学問が現れるのか（総括）

### 0. 学問観の非共有

- ・ 大きな物語（善い社会など）を求める学問と私的（楽しさ追求など）学問
- ・ 2つの学問観の分化、私的学問観同士の分化

### 1. 結びにかえて

- ・ 学問の私的な前提を共有するということ
- ・ 自己批判

### **【参考文献】**

- ・ 竹田青嗣 『自分を知るための哲学入門』 ちくま学芸文庫 1993
- ・ 竹田青嗣 『現象学入門』 NHK ブックス 1994
- ・ 村上陽一郎 「自己の解体と変革」 『飲ばしき学問』 岩波書店 1980
- ・ 村上陽一郎 『科学の現在を問う』 講談社現代新書 2000
- ・ 東浩紀 『動物化するポストモダン』 講談社現代新書 2001
- ・ 東浩紀・大澤真幸 『自由を考える』 NHK ブックス 2003
- ・ 阿部勤也 『学問と「世間」』 岩波新書 2001
- ・ 中島義道 『生きにくい…』 角川文庫 2004
- ・ マックス・ウェーバー 尾高邦雄訳 『職業としての学問』 岩波文庫 1936
- ・ 小林康夫 編 『学問のすすめ』 筑摩書房 1998